

百畳大凧 万感の舞

「八日市大凧まつり」が28日、東近江市建部北町の愛知川河川敷で行われた。百畳敷き大凧が青空に舞い上ると、大凧墜落という昨年の雪辱に燃えていた八日市大凧保存会のメンバーや市民らは万歳を繰り返して喜んだ。

東近江市の大凧揚げ(国選択無形民俗文化財)は、江戸時代中期に男子出生を祝うために始まったとされる。

昨年の雪辱 青空へ歓声も高々

大凧は縦約13㍍、横約12㍍、重さ約700キロで2年前に制作した。トビウオ4匹と「誓」の文字を描き、「非(飛)戦(魚→ウォー→W A R → 戦)の誓い」の意味を表し、平和への願いを込めた。

同保存会が指揮を執り、2回大凧揚げに挑んだ。1回目は太鼓の合図に合わせて約100人の引き手が一気に走り出すと、凧はゆっくりと上昇し高さ約60㍍まで達し約2分間空を舞った。

東近江で「八日市大凧まつり」



青空に舞い上がる百畳敷き大凧（東近江市・愛知川河川敷）